

## 平成 21 年度 第 1 回学校保健委員会記録

H.21. 7.16

進行：土田

記録：渋谷

1. 開会の挨拶（PTA会長）
2. 校長挨拶
3. 委員自己紹介
4. 平成 21 年度役員選出について

委員長：田村真明内科校医

副委員長：五十嵐PTA会長

○ 委員長挨拶

5. 協議（座長：田村委員長）

(1) 平成 21 年度学校保健計画について（保健主事）

(2) 平成 21 年度 健康安全指導計画について

<保健指導> 永田

（田村校医）さわやかカードの実施の予定は？

（永田）今年度、2 学期と 3 学期に実施予定。内容を工夫して実施したい。

<安全指導> 渋谷

（校長）子どもたちと一緒にやる安全点検の実施について。（補足説明）

<体育指導> 鈴木

（高橋歯科校医）転んで前歯を折る子が時々医院に来る。転んでも手をつかない子が増えているのではないかと。転ぶ、すりむくなど、いろいろな遊びを経験させた方がよい。何か対策が必要なのではないか。

（田村校医）すもう大会なども、格闘技のよい経験になるのでは。

（鈴木）体育指導でも、マットでのいろいろな転がり方など、低学年から経験させている。

<給食指導> 松本

（田村校医）児童会での取り組みは、具体的にどんなもの？

（松本）2 学期の心を育む給食週間の時に、食について調べたことを発表したり、食べ物クイズを出したりしている。

(3) 定期健康診断の結果について 永田

- ・ 体位は全体的に小柄な傾向。やせ傾向の割合が大きくなっている学年がある。
- ・ 裸眼視力、視力異常の割合が増えている。
- ・ う歯を持つ児童は減っているが、う歯未処置歯をもつ児童の割合は増えている。治療の促進。
- ・ 第一大臼歯のう歯が多い。

（永田）「子どものいびき」について、耳鼻科の保健調査では 47 人（13.3%）の子どもが該当している。耳鼻科疾患や睡眠時無呼吸症候群など、治療や受診の必要がある場合があると横山校医よりお聞きしたが、（いびきを）そのままにしないなど、家庭へも啓発していった方がいい

いのか？

(横山校医) いびきの原因は「鼻がつまる」「扁桃腺が大きい」など。そして空気が通りにくい状態で無理に呼吸すると息が止まる「睡眠時無呼吸症」になる場合がある。子どもにとって睡眠はとても大事。(眠ってすぐの深い眠りの時に成長ホルモンが出る。)睡眠時無呼吸症などでよい睡眠がとれていないと、学校で眠くなってしまう。アレルギー症状があっても、学校で眠くなるかどうか子どもに聞いてみて、眠くならなければチェックしていない。そういう意味で学校の検診で、アレルギーとしてチェックしたのは一部である。

眠っている時のことは、子ども本人はわからないので、保護者の方にどういう睡眠をとっているのかよく見てもらいたい。特に高学年になると保護者と一緒に寝ることが少なくなるので保護者が把握していない場合が多い。ぜひ子どもたちの睡眠に目を向けてほしい。

(永田) 本校の児童の歯の状況はどうだったかお聞きしたい。また歯並びの悪い「叢生」で、要観察の指摘を受けた子どもが多かった(22人)。これから何か気をつけることで改善できるのかどうかお聞きしたい。

(高橋歯科校医) 極端にむし歯が多いということはない。検診をしてみて、子どもたちが落ち着いていると感じた。小学校の6年間は全部の歯が生え変わる。これは体全体のバランス、体の成長に大きく影響する。むし歯をなおすこともとても重要なこと。

6歳臼歯は一番奥に生えてみがきにくいし、親が仕上げみがきをしなくなる危険な時期に生えてくるので、むし歯になりやすい。しかし一番かむ力が強く、体の成長に影響が大きい大切な歯である。6歳臼歯がむし歯になると、顔が曲がってしまうこともある。歯並びやかみ合わせの基本になる。「特別なものである」という感覚を持つことが大切である。

歯みがき指導をする場合は、6歳臼歯4本だけを点検、指導するのが効果的。この歯がしっかりみがけていれば他の歯も大丈夫。

歯並びについて、顎が小さい子が増えている。前歯がきれいに並ばなくなる。よくかまないで食べられる食事が原因。よくかむと歯並びがよくなる。繊維質のものをたくさん食べさせる。食後にキシリトールガムを噛ませるのも効果的。

(田村校医) 仕上げみがきはいつまで必要か？

(高橋歯科校医) 7歳ごろまでは必要。6歳臼歯がきちんとみがけるようになるまで。

(永田) 耳が痛いという子どもがある。急性中耳炎とその他を見分けるポイントは？

(横山耳鼻科校医) 耳をひっぱって痛ければ「おでき」。中耳炎は関係なしに痛い。熱は最初はないこともある。痛みが長く続く時は中耳炎。気圧の変化による場合の痛みもある。

#### (4) 今年度の重点活動について 永田

生活リズムアンケート結果について、さわやかカードの取り組みは昨年度の基礎をもとに、朝食のバランスに視点を当てて、朝食の内容を振り返られるものにしていく。

(田村校医) 保護者への働きかけについては？

(永田) 取り組みへの理解、協力をお願いする内容、そして朝食の大切さについて科学的に知らせる内容のおたよりを出したい。

(横山校医) アンケート結果について。「朝すっきり目覚められない」子ども。肥満やアレルギー、鼻疾患との関連がかなりあると思う。これを分析することで原因がわかる。「なぜこのような結果なのか」考えることが大切。そして疾患との関連でこういう事実があるということを知ら

せていく。

(高橋歯科校医) キレル子ども・朝ごはんを食べない子、お菓子だけの子がなりやすい。そういった子どもは低血糖のため、キレルことによってアドレナリンを出して血糖値を上げているという情報がある。

(田村校医) 最近、ごはんとおかずをばらばらに食べる子が多いと聞くがどうか。学校ではどんな指導をしているか？

(母親副委員長) 家の子どもはまんべんなく食べているようだ。

(体育副委員長) 下の子どもはごはんだけ、おかずだけの傾向がある。

#### (5) その他

(横山校医) 新型インフルエンザについての対応は？

(田村校医) 学級閉鎖や学校閉鎖の実施。どの程度でするかは相談して。早め早めの対応を。

(横山校医) 9月、10月からうがい手洗いを徹底する。時間と時間の間に必ずする習慣をつくること。流行ってからでは遅い。湿度を保つことも大事。今のうちから指導を。

(町会長連合会長) 市全体で取り組んでほしい。

(市教委) 5月より対策本部を設置し、学校での具体的な対策について、そのつど知らせている。秋から冬にかけて毒性が強いインフルエンザが発生する可能性もある。

(横山校医) 初年度より次年度の方が毒性が強くなる傾向がある。注意が必要。

(教頭) なりやすい人、ならない人があるのか？そのちがいは？

(田村校医) 体調など、いろいろな要因。

#### 6. 校医の先生方より

(田村校医) 高橋先生より、「かむ」ことの大切さをお聞きできた。歯についての講話を子どもたちや保護者へしていただく機会をぜひつくってほしい。

#### 7. 閉会の挨拶 (PTA会長)